



2019年9月20日

FAX飛躍

JR東労組東京地本青年部

地本青年部「第36回定期委員会」 20春闘勝利、安全最優先の施策実現、不当 労働行為根絶に向けてたたかう方針を確認！

委員会宣言 ~~(X)~~

JR東労組東京地本青年部は第36回定期委員会を滝野川会館大ホールで開催した。19春闘までについた格差を20春闘で是正し格差のないベースアップを実現すること、変革2027をベースとしたあらゆる施策に対し青年部要求を掲げてたたかい抜き、全青年部員の総力でJR東労組再結集に向けてあらゆる理不尽には一切屈せず立ち向かうことを確認した。

19春闘は、6年連続のベースアップ実施を確認し一定の成果を確認することができた。しかし、内容を見れば「所定昇給額の6分の1を加え、さらに主務職・T等級以上に100円を加算」といった内容で私たちのめざした「一律・所定昇給額を算出基礎としない」ベースアップ実施の要求実現とはならなかった。妥結内容は、14春闘以降対立を深めてきた「格差ベア」となり、「職務・職階級」が重視された内容で16春闘以前の回答へ後退してしまったと言わざるを得ない。地本青年部作成の職場討議資料を活用した賃金学習会において、賃金本質論や18春闘までのたたかいを振り返ってきた。職場議論を積み上げ「地本春闘総決起集会」「地本青年部フットサル大会」などの結集軸に1000名を超える仲間が立ち上がってきた。10月には、消費税10%引き上げに伴う物価上昇と可処分所得のさらなる減少は避けられない。将来の社会保障費のあり方や、若年層に手厚い賃金配分のあり方などを検討し生活の維持向上に努めていくことが重要な課題になる。20春闘では、上がり続ける物価に対し19春闘での総括をもとに「誰にでも等しくある格差のない」ベースアップ実施をめざしていく。

昨年7月に新グループ経営ビジョン「変革2027」が発表されて以降「駅の変革」や「電気部門の変革2022」「新たなジョブローテーションの実施」などの各種施策が打ち出されている。共通しているのは働き方の多様化と、社員の運用を柔軟化することで生産性の向上がめざされている点である。技術継承・異常時対応の維持強化などを軸に、青年部要求を掲げ実現に向けた職場討議にこだわっていく。また、今後30年をJR東日本で働く青年部の将来に大きく関わる諸施策に対して、命を絶対的価値軸とし「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保に未来の職場を私たち青年部の実践でつくりだそう！

昨年2月の18春闘を契機としたJR東日本会社によるJR東労組からの脱退策動が今もなお、止まらない。脱退理由も当初の会社による脱退強要から、各種試験などを理由とした会社による利益誘導などへと変化してきた。これは、JR東日本会社からJR東労組へかけられている組織破壊攻撃であり、憲法第28条で保障されている団結権、労働組合法第7条違反の不法行為と規定し、組織の総力を挙げて立ち向かわなければならない。あったことを無かったことにはできない。地本青年部は仲間とともに手を取り合い強いスクラムで、あらゆる手段を活用し青年部の強化を通じて理不尽には屈しない組織をつくりだしていく。

7月21日に投開票された第25回参議院選挙で、自民・公明など改憲勢力が改選議席の過半数を超える63議席を確保した一方、改憲発議に必要な3分の2の議席を確保することはできなかった。安倍首相は改憲に向けて、「私の任務、残された任期中に挑む」と述べ意欲を示している。過去の戦争では労働者が加担し、悲惨な戦禍を起こしてしまった反省と、弱い立場の子供や女性、労働者が犠牲となる歴史を学び、これからも平和憲法を守り平和な社会の実現に向けて取り組んでいく。

地本青年部は、JR東労組でしかできない人と人との繋がりを大切に、全青年部員の総力でJR東労組再構築に向けて全系統全職場から再結集を広範に呼びかけていく。辛い時こそ、人間らしく真当に生き正論を貫き、皆で手を取り合って温もりのある強固な組織をつくりだすために今こそ、たたかおう！

以上、宣言する。

2019年9月19日
東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部青年部
第36回定期委員会



スムーズに大会を進行した
議長の皆さん
ありがとうございました！

青年部からJR東労組の再構築と、再結集に 向けて正論を貫き強固な組織をつくりだそう！